



BOM for Windows Ver.6.0 SR2

拡張モジュール

ユーザーズ マニュアル

2016 年 12 月 1 日

免責事項

本書に記載された情報は、予告無しに変更される場合があります。セイ・テクノロジーズ株式会社は、本書に関していかなる種類の保証（商用性および特定の目的への適合性の黙示の保証を含みますが、これに限定されません）もいたしません。

セイ・テクノロジーズ株式会社は、本書に含まれた誤謬に関する責任や、本書の提供、履行および使用に関して偶発的または間接的に起こる損害に対して、責任を負わないものとします。

著作権

本書のいかなる部分も、セイ・テクノロジーズ株式会社からの文書による事前の許可なしには、形態または手段を問わず決して複製・配布してはなりません。

Copyright © 2016 SAY Technologies, Inc. All rights reserved.

本ユーザーズマニュアルに記載されている BOM はセイ・テクノロジーズ株式会社の登録商標です。Microsoft, Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。その他会社名、製品名およびサービス名は各社の商標または登録商標です。

なお、本文および図表中では、「™ (Trademark)」、「® (Registered Trademark)」は明記しておりません。

■ 目次

本ユーザーズマニュアルについて	1
製品表記	1
使用方法	1
表記規則	1
第 1 章 システム構成	2
1.1 動作概要	2
1.2 システム要件	2
第 2 章 インストール	3
2.1 動作環境	3
2.2 BOM 6.0 SR2 拡張モジュール インストール前の事前準備	5
2.3 インストール手順	6
2.3.1 BOM 6.0 SR2 拡張モジュールのインストール	6
第 3 章 ファイルサーバー監視	7
3.1 ファイルサーバー監視の設定方法について	7
3.1.1 注意点	7
3.1.2 テンプレートの詳細について	7
3.1.3 ファイルサーバー 監視テンプレート適用方法	8
3.1.4 各監視項目で設定できる引数について	10
3.2 ファイルサーバー監視で出力したログの確認方法について	10
3.2.1 ファイルサーバー監視ビューアーについて	10
第 4 章 BOM Report オプション	13
4.1 事前の準備	13
4.2 Microsoft .NET Framework Ver.3.5 SP1 のインストール	14
4.3 Microsoft Chart Controls for Microsoft .NET Framework 3.5 SP1 のインストール	17
4.4 BOM アーカイブデータベースのアップグレード	17
4.5 レポート用監視テンプレートの適用	19
4.5.1 テンプレートインポート例	19
4.6 BOM レポートデータベースの作成	22
4.6.1 “BOM 6.0 レポートデータベース管理メニュー”の起動	22
4.6.2 “BOM 6.0 レポートデータベース管理メニュー”の詳細	22
4.7 BOM レポートデータベース設定ウィザードの起動	27
4.8 BOM レポートデータベース設定ウィザードの実行	28
4.8.1 ウェルカム	28
4.8.2 ライセンス認証	28
4.8.3 アーカイブデータベースへの接続	29
4.8.4 出力設定	30
4.8.5 レポートデータベース設定	31

4.8.6 BOM 6.0 レポートデータベース設定完了	32
4.9 レポート作成ウィザード拡張の起動	33
4.10 レポート出力ウィザードの実行	34
4.10.1 ウェルカム	34
4.10.2 レポートデータベースへの接続	34
4.10.3 レポート出力期間の指定	35
4.10.4 レポート作成インスタンスの指定	35
4.10.5 レポートデザインの指定	37
4.10.6 デザインデータソースの設定	38
4.10.7 出力設定の確認	38
4.10.8 レポート完了	39
第5章 出力レポート	40
5.1 概要	40

本ユーザーズマニュアルについて

製品表記

本ユーザーズマニュアルでは、以下の製品について略称を使用しております。

正式名称	本マニュアルでの呼称(略称)
BOM for Windows Ver.6.0	BOM 6.0
BOM for Windows Ver.6.0 SR2	BOM 6.0 SR2
BOM for Windows Ver.6.0 SR2 拡張モジュール	BOM 6.0 SR2 拡張モジュール
BOM Report オプション Ver.6.0	Report オプション
BOM 6.0 レポート出力ウィザード	レポート出力ウィザード

使用方法

本ユーザーズマニュアルには、BOM を使用する際に必要となる詳細な情報と手順が記載されています。

本ユーザーズマニュアルを使用するには、Microsoft Windows オペレーティングシステムについての実際的な知識と、BOM 6.0 の基本的な知識が必要です。

表記規則

本ユーザーズマニュアルでは、以下の表記規則を使用しています。

表記	説明
‘参照先’	シングルクォート内(‘と’)は本マニュアル内、あるいは別のマニュアルの参照を示します。
“ラベル”	ダブルクォート内(“と”)はラベル名を示します。
「タブ」	鉤括弧内(「と」)はプロパティシート等でのタブ名を示します。
[ボタン]	角括弧内([と])はボタン名を示します。
<キー>	山括弧(不等号記号)内(<と>)はキーボード入力を示します。
(補足説明)	丸括弧内(「(」と「)」)は補足説明を示します。

第1章 システム構成

1.1 動作概要

BOM 6.0 SR2 拡張モジュール は、BOM 6.0 SR2 が導入済みの Windows コンピューターに BOM 6.0 SR2 拡張モジュールを追加インストールすることにより動作します。

1.2 システム要件

- インストール先の OS やシステム構成が、BOM 6.0 SR2 の動作要件に適合していること
- BOM 6.0 SR2 がインストールされ正常に動作していること
- インストール先ボリュームに 20MB 以上の空き容量があること
- BOM 6.0 SR2 のアーカイブデータベースへとアップグレードしていること

第2章 インストール

2.1 動作環境

A. ファイルサーバー監視テンプレートの動作要件

ファイルサーバー監視テンプレートを導入する監視元コンピューターは、Windows Server ベースのコンピューターで動作いたします。
監視元コンピューターについては、BOM 6.0 インストールマニュアルの「1.2 BOM のシステム要件」をご確認ください。

B. ファイルサーバー監視ビューアーの動作要件

ファイルサーバー監視ビューアーは、以下の OS で動作いたします。

サポート OS ※1		
バージョン	エディション	サービスパック
Windows Server 2008 ※2	Standard Edition (32-bit / 64-bit)	SP2
	Enterprise Edition (32-bit / 64-bit)	
Windows Server 2008 R2 ※2	Standard Edition	SP1
	Enterprise Edition	
Windows Server 2012 ※2	Standard Edition	Update なし
	Datacenter Edition	
Windows Server 2012 R2 ※2	Standard Edition	Update 1
	Datacenter Edition	

※1 OS への対応検証はサービスパック単位となっており、個別パッチ (Hotfix, QFE など) 毎の検証は行っておりません。

ただし、個別パッチがファイルサーバー監視ビューアーの動作に影響を与える場合は、[弊社の Web サイト](#)にて情報を提供いたします。

※2 Server Core へファイルサーバー監視ビューアーはインストールできません

C. BOM Report オプションの動作要件

BOM Report オプションは、以下の OS で動作いたします。

なお、BOM 6.0 出力ウィザードについては以下の OS および Windows 7 SP1 (Professional/Enterprise/Ultimate) (32-bit/64-bit) 上で動作いたします。

サポート OS ※1		
バージョン	エディション	サービスパック
Windows Server 2008 R2 ※2	Standard Edition	SP1
	Enterprise Edition	
Windows 8	Pro Edition(32-bit/64-bit)	Update なし
	Enterprise Edition (32-bit/64-bit)	
Windows Server 2012 ※2	Standard Edition	Update なし
	Datacenter Edition	
Windows 8.1	Pro Edition(32-bit/64-bit)	Update 1
	Enterprise Edition (32-bit/64-bit)	
Windows Server 2012 R2 ※2	Standard Edition	Update 1
	Datacenter Edition	
Windows 10	Pro Edition(32-bit/64-bit)	Update なし
	Enterprise Edition (32-bit/64-bit)	

※1 OS への対応検証はサービスパック単位となっており、個別パッチ (Hotfix, QFE など) 毎の検証は行っておりません。

ただし、個別パッチが BOM Report オプションの動作に影響を与える場合は、[弊社の Web サイト](#)にて情報を提供いたします。

※2 Server Core へ BOM Report オプションはインストールできません

D. 対応データベース

BOM Report オプションで対応しているデータベースは以下のバージョンで動作いたします。

サポートデータベース	
バージョン	エディション
SQL Server 2008 R2	Express Edition
	Workgroup Edition
	Standard Edition
	Enterprise Edition
SQL Server 2012	Express Edition
	Standard Edition
	Business Intelligence
	Enterprise Edition
SQL Server 2014	Express Edition
	Standard Edition
	Business Intelligence
	Enterprise Edition

2.2 BOM 6.0 SR2 拡張モジュール インストール前の事前準備

BOM 6.0 SR2 拡張モジュールをインストールするには、以下の設定を事前に行う必要が有ります。

- 管理者権限を持つアカウントにてログインしていること
- BOM 6.0 のアーカイブデータベースが構築されていること
- BOM 6.0 のアーカイブデータベースを SR2 へアップグレードしていること

2.3 インストール手順

BOM 6.0 SR2 拡張モジュールのインストール手順を以下にご案内いたします。

なお、インストール作業は管理者権限が必要となりますので、管理者権限を持つアカウントにてログオンの上、作業を行ってください。

※ 以降の手順は必要な作業項目の概要のみを抽出した概略手順となります。

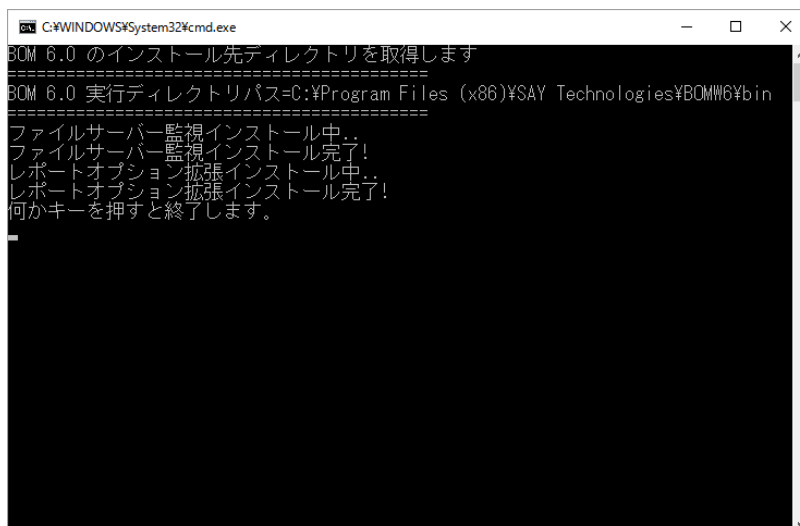
BOM 6.0 SR2 の詳細な導入手順については、‘BOM for Windows Ver.6.0 インストール マニュアル’をご参照ください。

2.3.1 BOM 6.0 SR2 拡張モジュールのインストール

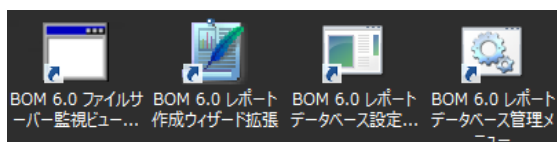
BOM 6.0 SR2 拡張モジュールのインストールは、以下の手順にて実施します。

A. BOM 6.0 SR2 拡張モジュールのインストール

1. “BOM6-SR2-EX201612.zip”ファイルを任意の場所へ解凍します。
2. “BOM6-SR2-EX201612.zip”ファイル解凍後、展開されたファイルの中から“BOM for Windows Ver 6.0 SR2 拡張モジュール”フォルダーを開きます。
3. “BOMW6”フォルダーを選択後、以下のアドレス配下へと上書きコピーします。
 ※コピー時に監視等が動作していても影響はございません
 ※“ファイルの置換またはスキップ”の確認画面が表示されますが、“ファイルを置き換える”を選択してください
 アドレス:<(インストールパス)¥SAY Technologies>
4. 上書きコピー作業完了後、以下のアドレスにあります“BOM6SR2Extend_install.bat”ファイルを起動します。
 アドレス:<(インストールパス)¥SAY Technologies¥BOMW6¥Bin>
5. BOM 6.0 SR2 拡張モジュール適用作業が自動で動作しますので、メッセージ“何かキーを押すと終了します。”が出力されたら、任意のキーを押下し終了させます。



デスクトップに各種ショートカットが作成されます。



第3章 ファイルサーバー監視

3.1 ファイルサーバー監視の設定方法について

ファイルサーバー監視はファイルサーバー監視用テンプレートをインポートし設定することにより動作します。

3.1.1 注意点





本テンプレートは、以下の条件を満たしている場合にご利用頂けます。

- BOM 6.0 SR2 の動作要件を満たし、正常にインストールされ動作していること。
- 代理監視インスタンスでは本テンプレートを使用することができません。使用できるのはローカル監視インスタンスのみです。

3.1.2 テンプレートの詳細について

本テンプレートを、BOM 6.0 SR2 で動作する Windows 監視インスタンスにインポートし、設定することにより、ファイルサーバー向け監視を簡単に設定できます

・本テンプレートには、以下の監視項目が含まれます。

監視グループ/監視項目名	初期値
 ファイルサーバー 監視	有効
 重複ファイル監視	有効
 未アクセスファイル監視	有効
 Windows Update 監視	有効

※本テンプレートに含まれる各監視項目は初期値で毎週日曜 0 時 00 分に動作する様設定されています

変更する場合には、各監視項目内の開始時刻を任意で変更してください

A. 各監視項目の役割について

1. 重複ファイル監視

監視対象の論理ドライブに対し、重複しているファイル名、ファイル属性(システムファイル、隠し属性)を基に監視を行います。

2. 未アクセスファイル監視

監視対象の論理ドライブに対し、最終アクセス日が 6 か月以上前のファイルを対象に監視を行います。

3. Windows Update 監視

Windows Update の適用状況を監視します。

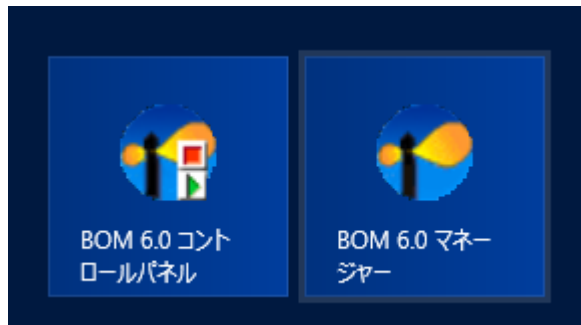
3.1.3 ファイルサーバー 監視テンプレート適用方法

テンプレートの導入方法は、下記に案内する方法で行うことが可能です。

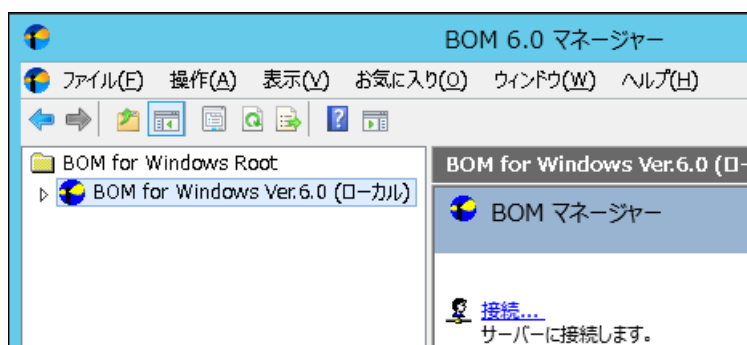
A. ファイルサーバー監視項目の作成

ファイルサーバー監視項目を作成する手順は以下の通りです。

1. スタート画面より、“BOM 6.0 マネージャー”を選択します



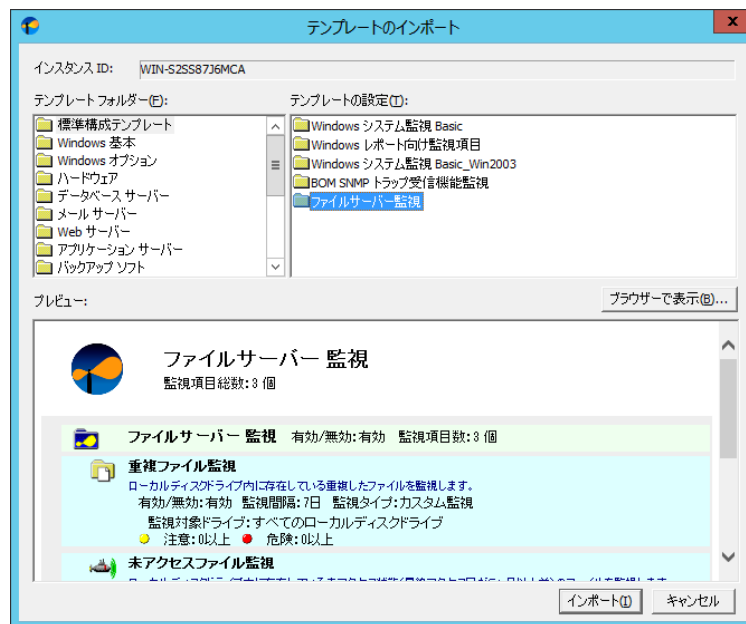
2. BOM マネージャーにて、“接続”をクリックし、監視コンピューターに接続します



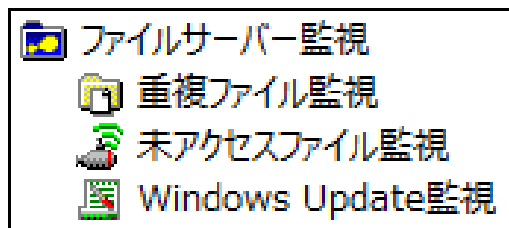
3. スコープペインにて、ファイルサーバー監視をしたい Windows 監視インスタンスを選択し、右クリックメニューから“テンプレートのインポート”をクリックします



4. “テンプレートフォルダー”から、“標準構成テンプレート”、“テンプレートの設定”から、“ファイルサーバー監視”をクリックします



5. [インポート]ボタンをクリックし、テンプレートをインポートします
6. スcopeペインにて監視グループ“ファイルサーバー監視”が作成されたことを確認します



7. BOM の監視設定の変更方法やテンプレートの利用方法などの詳細については、‘BOM for Windows Ver.6.0 ユーザーズ マニュアル’をご参照ください。

3.1.4 各監視項目で設定できる引数について

各監視項目は、各種引数をあらかじめ入力してあります。引数については、変更可能なものが一部ありますので、本章では変更可能な引数部分についてご案内いたします。

なお、その他引数については変更ができません。

また変更された場合にはサポート対象外となりますのでご注意ください。

A. 各監視項目の役割について

1. 重複ファイル監視及び、未アクセスファイル監視

- path:path ... 検索対象のパス(省略時、全固定ドライブ)
- r:str ... 除外する文字列。文字列は正規表現で指定します。
- s ... システム属性のフォルダー・ファイルを調査対象とします。
- h ... 隠し属性のフォルダー・ファイルを調査対象とします。
- e ... 空ファイルを調査対象とします。

2. Windows Update 監視

変更できる引数はありません。

3.2 ファイルサーバー監視で出力したログの確認方法について

ファイルサーバー監視で監視した結果は別途用意してありますビューアーを使用することにより確認が可能です。

なお、ログファイルは csv 形式で以下のアドレスに格納されています。

アドレス:<(インストールパス)¥SAY Technologies¥BOMW6¥Temp >

3.2.1 ファイルサーバー監視ビューアーについて

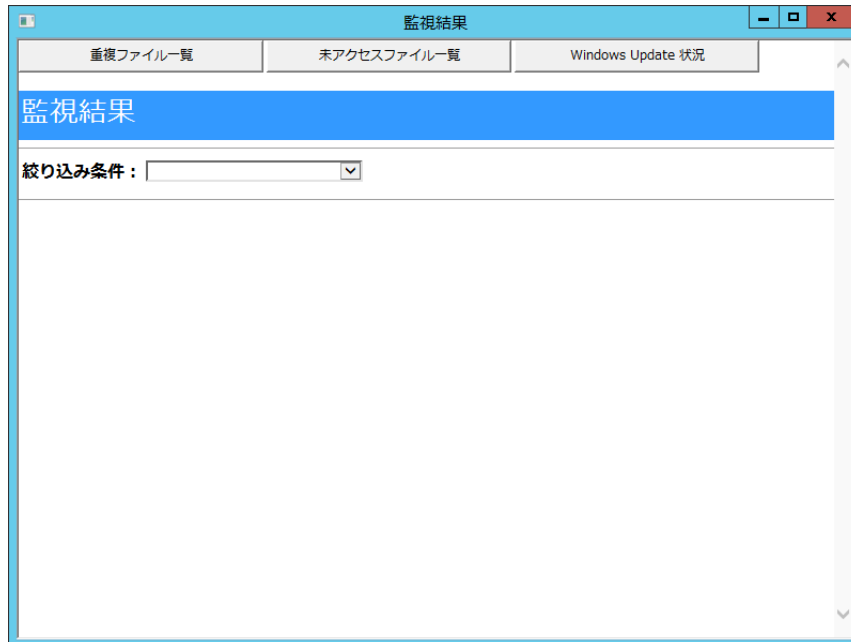
A. ファイルサーバー監視ビューアーの起動方法

ファイルサーバー監視ビューアーを起動する手順は以下の通りです。

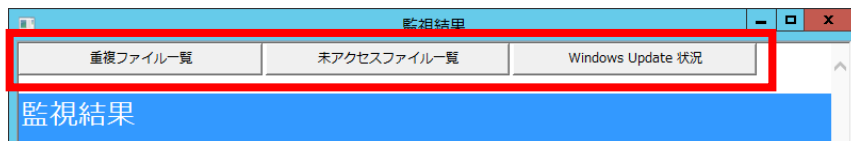
1. デスクトップ上に作成されている“BOM 6.0 ファイルサーバー監視ビューアー”を起動します



2. 監視結果ウィンドウが開きます。



3. 確認したいログを、上部ボタン(重複ファイル一覧や、未アクセスファイル一覧等)から選択します。



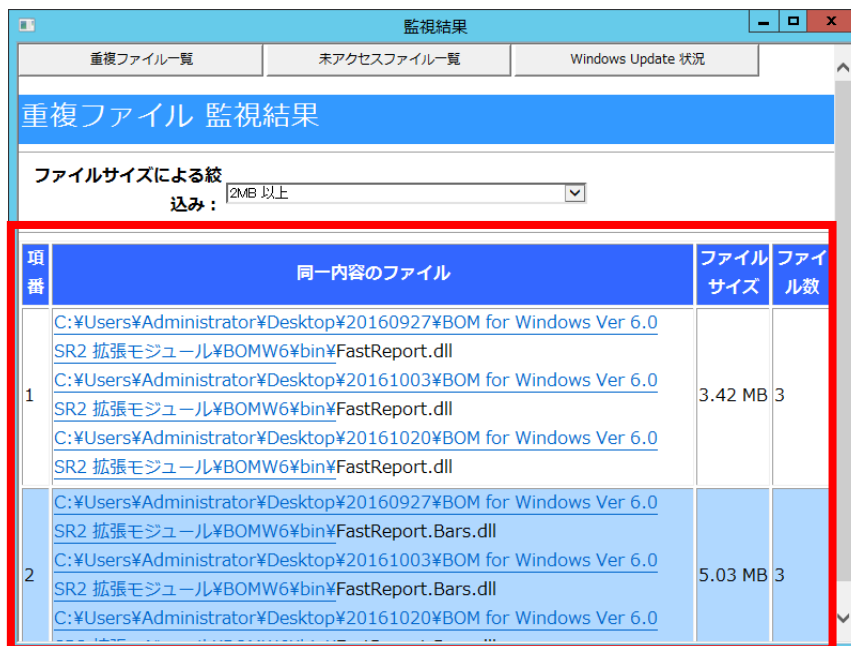
4. 該当するログが画面面上に出力されます。



5. 絞り込みを行いたい場合には、プルダウンメニューから絞り込みたい条件を選択します。



6. 選択後、画面下部に結果が出力されます。



第4章 BOM Report オプション

BOM 6.0 SR2 拡張モジュールでは従来の Report オプションをベースに新しいレポートを実装いたしました。

この章では新しくなった Report オプションを使用するまでの手順、新しいレポートオプションのレポートについてご案内いたします。

※ 従来の Report オプションはそのままご利用いただけます

4.1 事前の準備

新しい Report オプションにて監視コンピューターのレポートを出力するには、事前の準備として以下の作業が必要となります。

- Microsoft .NET Framework Ver.3.5 SP1 のインストール
- Microsoft Chart Controls for Microsoft .NET Framework 3.5 のインストール
- BOM アーカイブデータベースのアップグレード
- 新しい Report オプション用の各レポートに準じた監視項目でのレポート用データ収集
- BOM レポートデータベースの作成
- BOM レポートデータベースの設定

以下に、それぞれの作業手順をご案内いたします。

4.2 Microsoft .NET Framework Ver.3.5 SP1 のインストール

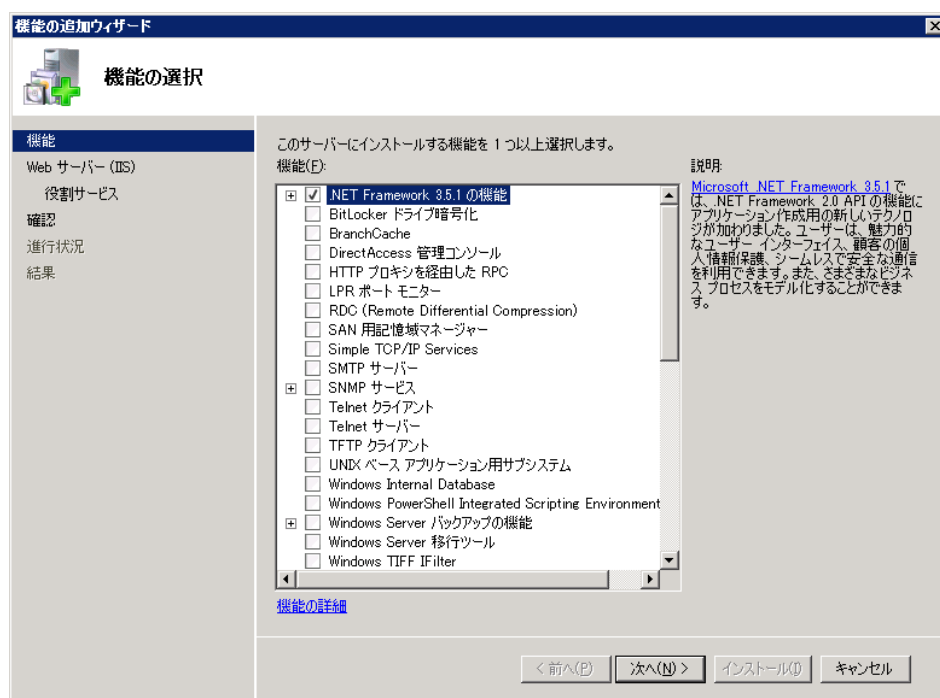
新しい Report オプションを使用するためには Microsoft .NET Framework Ver.3.5 SP1 を事前にインストールする必要があります。

Microsoft .NET Framework Ver.3.5 SP1 がインストールされていない場合は、以下の作業を実施してください。

A. Windows Server 2008 R2 の場合

1. [スタート]ボタンより“管理ツール”、さらに“サーバー マネージャー”を選択します
2. “機能”をクリックし、さらに“機能の追加”をクリックします
3. 画面の左上より“Windows の機能の有効化または無効化”をクリックします
4. “機能の追加ウィザード”にて表示された一覧の中から“.NET Framework 3.5.1 の機能”を選択しインストールします

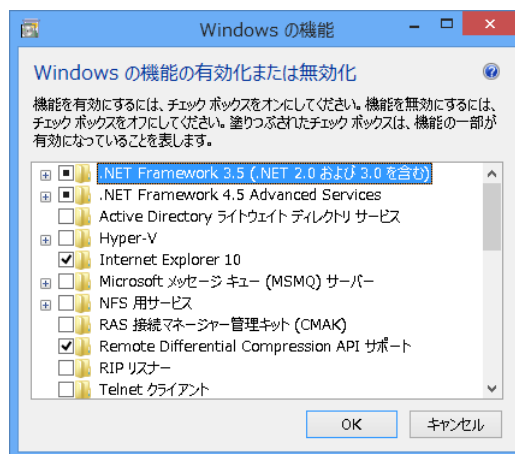
※“Microsoft .NET Framework 3.5.1”と表記されています



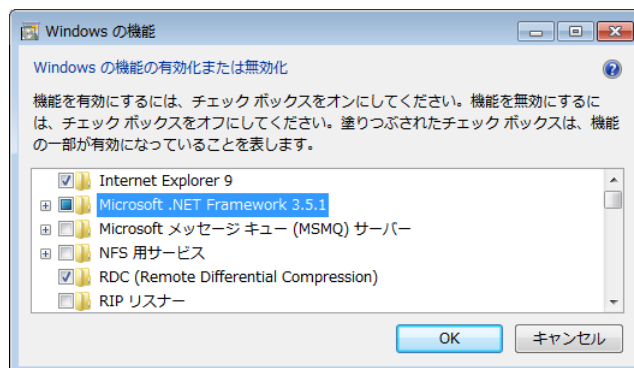
B. Windows 7/8/8.1/10 の場合

1. スタート画面の“すべてのアプリ”より、“コントロール パネル”を選択します
2. カテゴリ“プログラム”の“プログラムの取得”をクリックします
コントロールパネルがクラシック表示の場合には、“プログラムと機能”をクリックします
3. 画面の左上より“Windows の機能の有効化または無効化”をクリックします
4. 表示された一覧の中から“.NET Framework 3.5(.NET 2.0 および 3.0 を含む)”を選択し[OK]ボタンをクリックします

※Windows 8/Windows 8.1/10 では SP1 の表記がありません



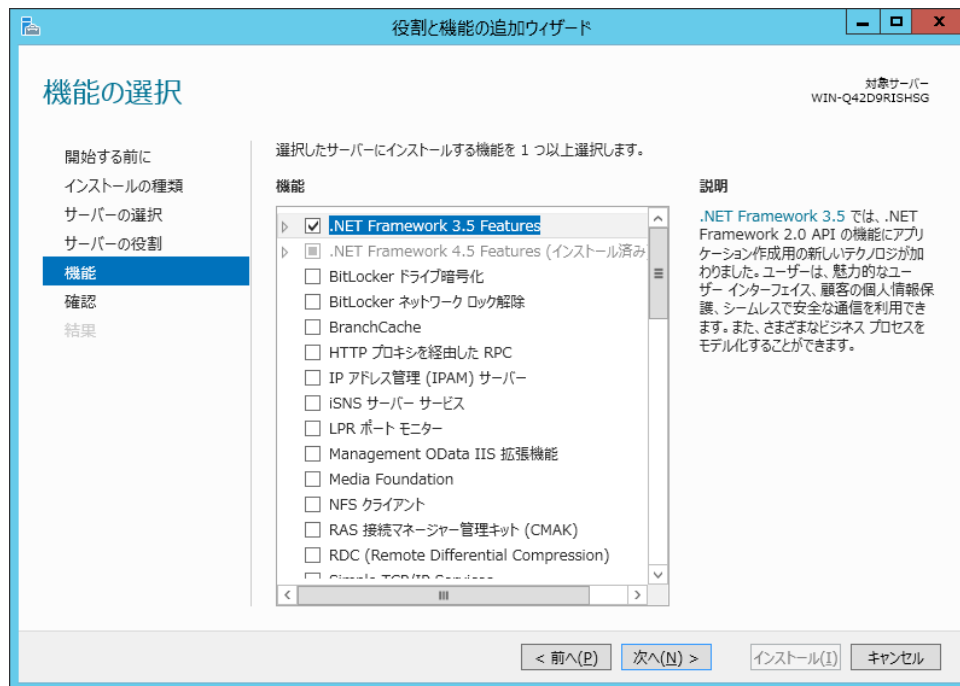
※Windows 7 では“Microsoft .NET Framework 3.5.1”と表記されています



C. Windows Server 2012/Windows Server 2012 R2 の場合

1. スタート画面より、“サーバー マネージャー”を選択します
2. カテゴリ“プログラム”の“役割と機能の追加”をクリックします
3. “役割と機能の追加ウィザード”を“機能”まで進めます
4. 表示された一覧の中から“.NET Framework 3.5 Features”選択しインストールします

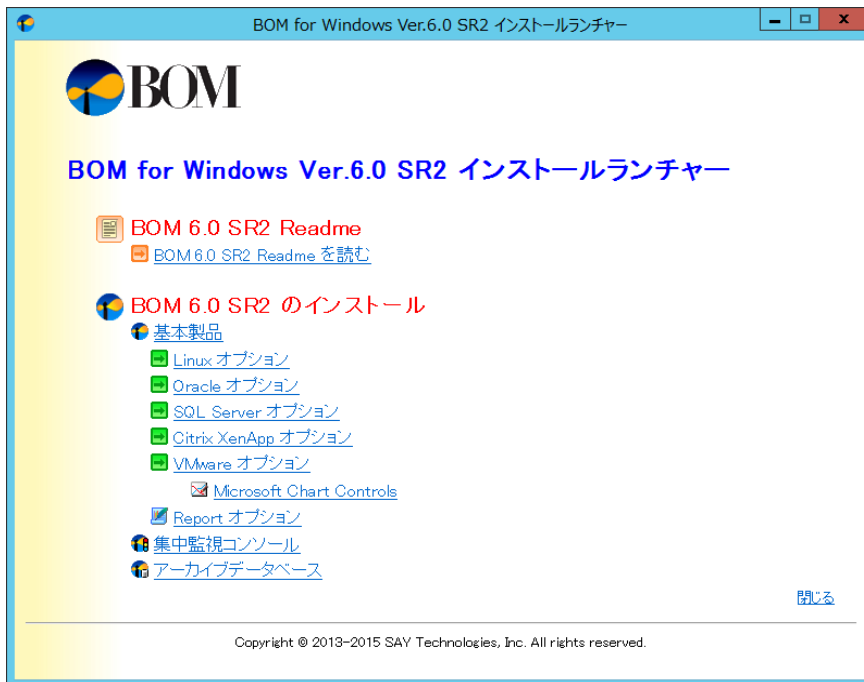
※Windows Server 2012/Windows Server 2012 R2 では SP1 の表記がありません



4.3 Microsoft Chart Controls for Microsoft .NET Framework 3.5 SP1 のインストール

Microsoft Chart Controls for Microsoft .NET Framework 3.5 SP1 のインストールは、以下の作業で実施してください。

1. BOM 6.0 SR2 の DVD-ROM をコンピューターに挿入し、インストールランチャーを起動します



2. “VMware オプション”配下にある“Microsoft Chart Controls”をクリックし、セットアップウィザードを起動します



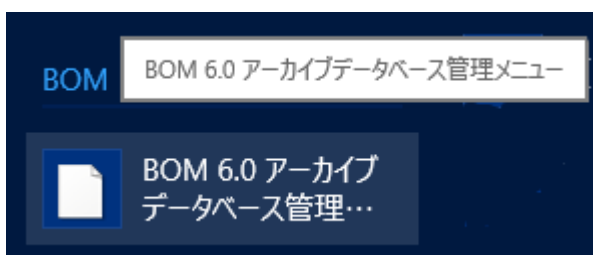
3. セットアップウィザードに従って Microsoft Chart Controls のセットアップを完了させます

4.4 BOM アーカイブデータベースのアップグレード

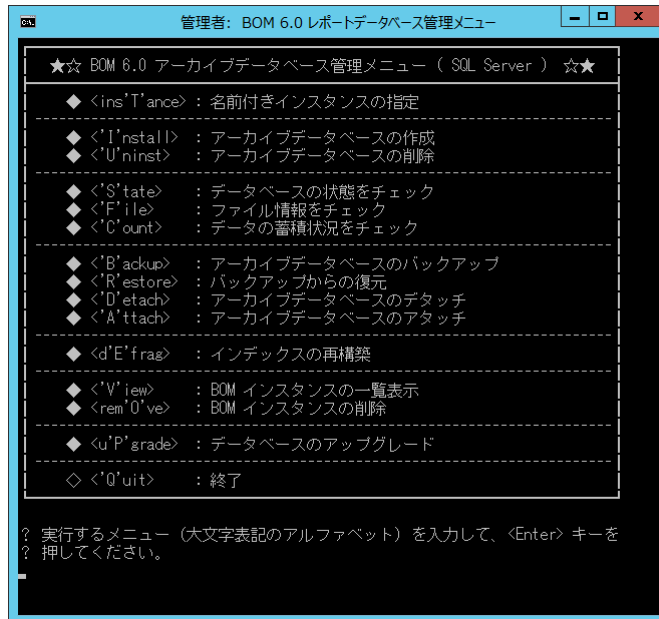
新しい Report オプションを使用するためには BOM アーカイブデータベースのアップグレードを行う必要があります。

※ 以下の手順は必要な作業項目の概要のみを抽出した概略手順となります。アーカイブデータベースの詳細な導入手順については ‘BOM for Windows Ver.6.0 インストール マニュアル’をご参照ください。

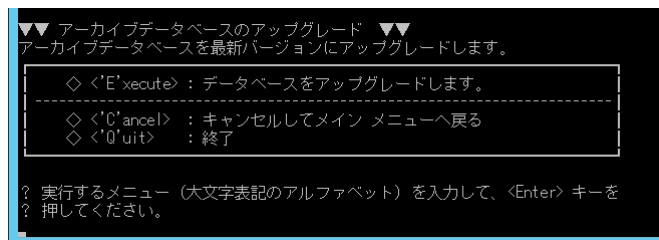
1. スタート画面より、右クリックし“すべてのアプリ”を選択したのちに表示される“BOM 6.0 アーカイブデータベース管理メニュー”を選択します



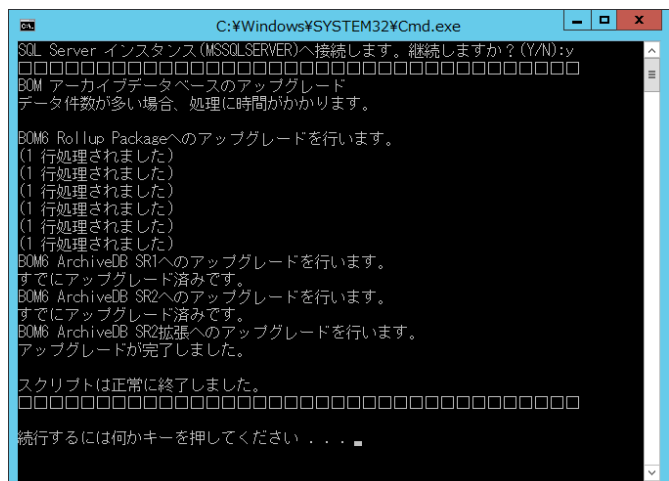
2. “BOM 6.0 アーカイブデータベース管理メニュー”が起動します



3. アーカイブデータベース管理メニューにて<P>を入力し、<Enter>キーと続けて押し、アーカイブデータベースのアップグレードを開始します



4. 処理に従いアーカイブデータベースのアップグレードを完了させます。



4.5 レポート用監視テンプレートの適用

新しい Report オプションでは、専用のテンプレートを使用し監視を行ったうえでアーカイブデータベースへ監視結果を格納する必要があります。

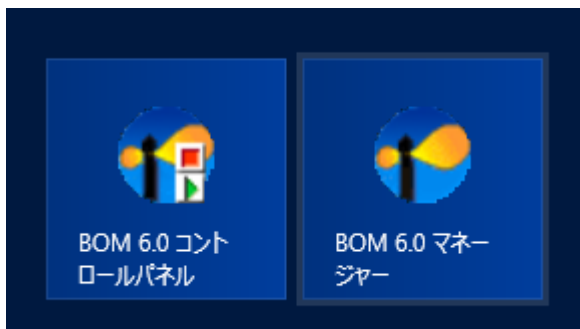
レポートデザインに紐づいたテンプレートを各種ご用意しておりますので、用途に合わせて必要なテンプレートをインポートしてください。

対象の監視テンプレートについては、‘BOM for Windows Ver.6.0 Report オプションデザインファイル仕様’の各デザイン部分をご参照ください。

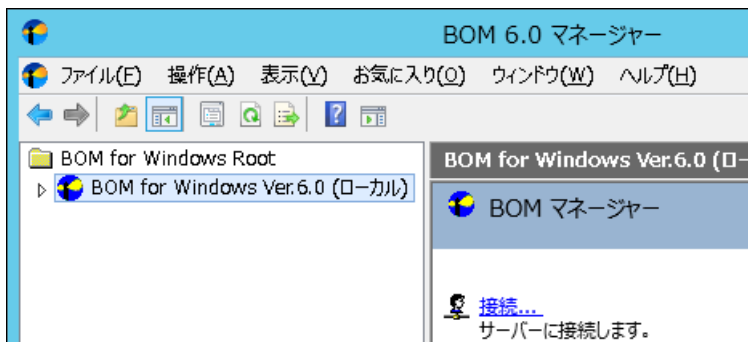
4.5.1 テンプレートインポート例

以下の手順はテンプレートのインポートを行うための操作例です、実際に出力したいレポート用のテンプレートに置き換えてご確認ください

1. スタート画面より、“BOM 6.0 マネージャー”を選択します



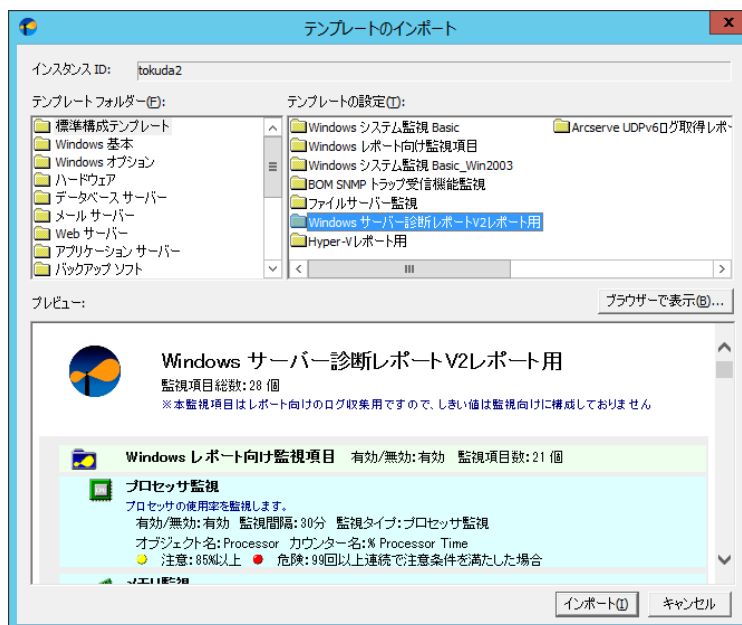
2. BOM マネージャーにて、“接続”をクリックし、監視コンピューターに接続します



3. スコープペインにて、レポートを出力したい Windows 監視インスタンスを選択し、右クリックメニューから“テンプレートのインポート”をクリックします

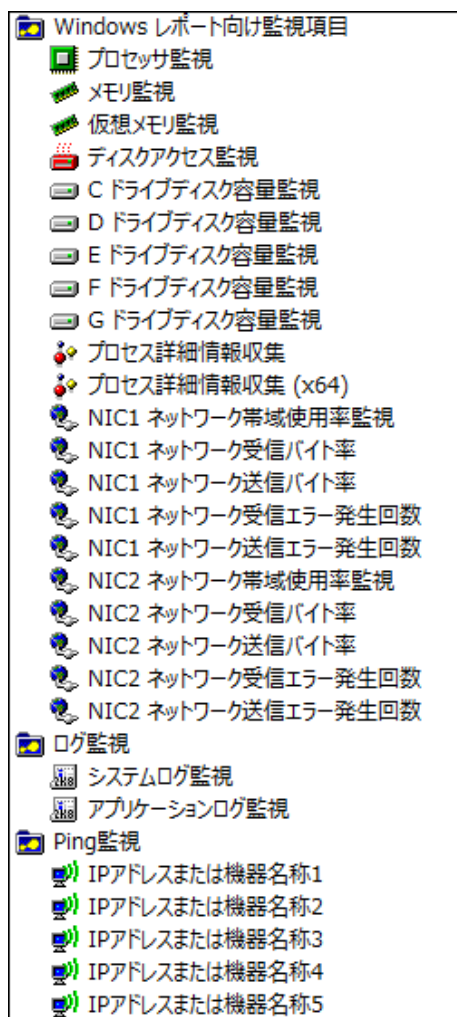


4. “テンプレートフォルダー”から、“標準構成テンプレート”、“テンプレートの設定”から、“Windows サーバー診断レポート V2 レポート用”をクリックします



5. [インポート]ボタンをクリックし、テンプレートをインポートします

6. スコープペインにて監視グループ“Windows レポート向け監視項目”、“ログ監視”、“Ping 監視”が作成されたことを確認します



7. BOM の監視設定の変更方法やテンプレートの利用方法などの詳細については、‘BOM for Windows Ver.6.0 ユーザーズ マニュアル’をご参照ください。

4.6 BOM レポートデータベースの作成

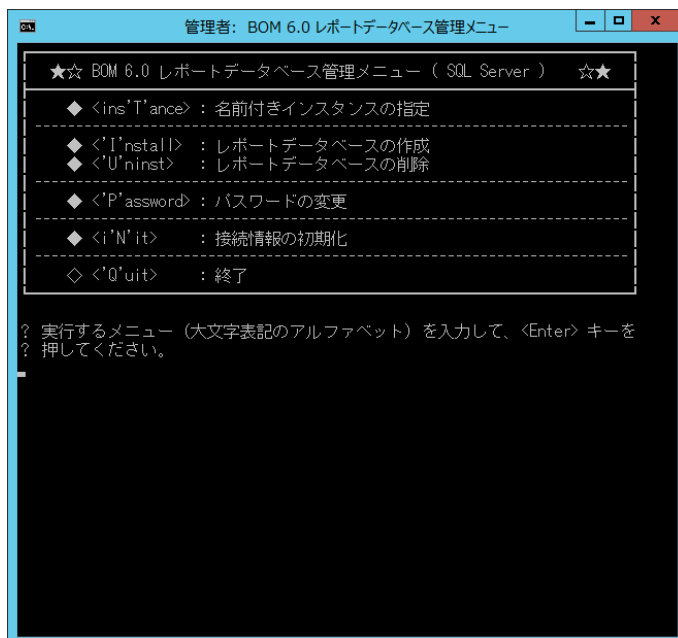
レポートを出力するためには、別途レポート用のデータベースを作成する必要があります。

4.6.1 “BOM 6.0 レポートデータベース管理メニュー”の起動

1. デスクトップ上にある“BOM 6.0 レポートデータベース管理メニュー”を起動します



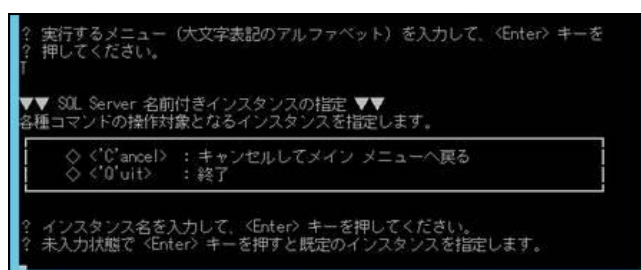
2. “BOM 6.0 レポートデータベース管理メニュー”が起動します。



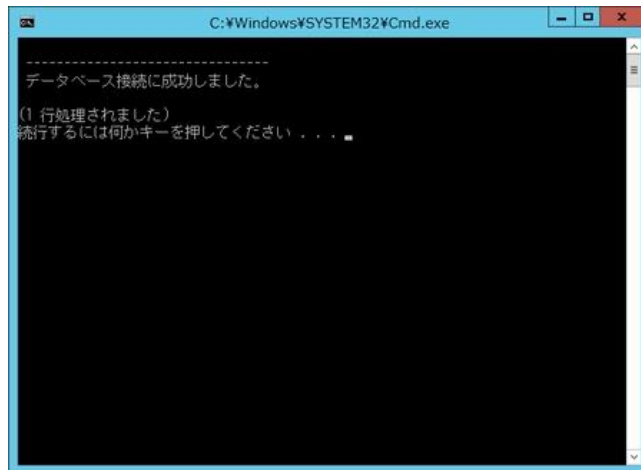
4.6.2 “BOM 6.0 レポートデータベース管理メニュー”の詳細

A. <ins'T'ance> : 名前付きインスタンスの指定

1. BOM レポートデータベース作成時の接続先の SQL Server のインスタンスの指定するために、<T>を入力し<Enter>キーを押下します。

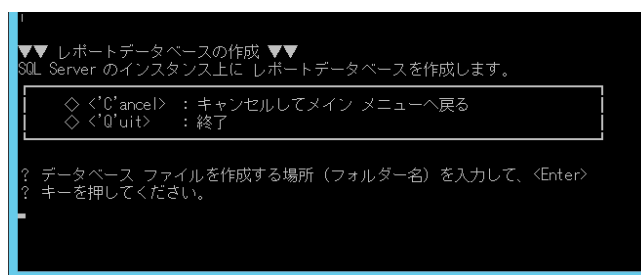


2. 名前付きインスタンスを指定して BOM レポートデータベースを作成する場合は接続する名前付きインスタンスを指定します。未入力で<Enter>キーを押下すると、BOM 6.0 は既定のインスタンス“MSSQLSERVER”を自動的に指定します。
3. 指定したインスタンスに接続できると、下記の画面になります。

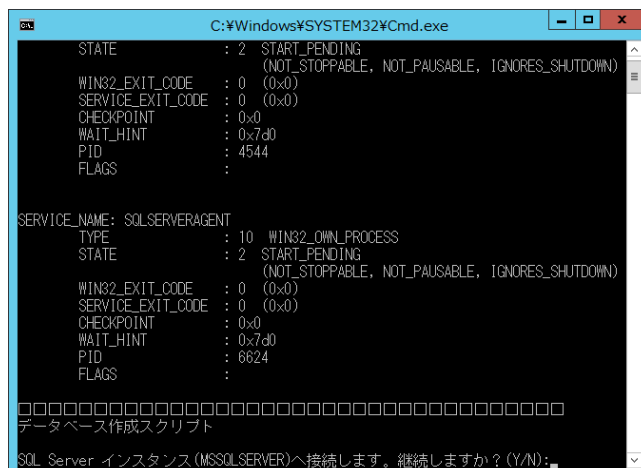


B. <'l'nstall> : レポートデータベースの作成

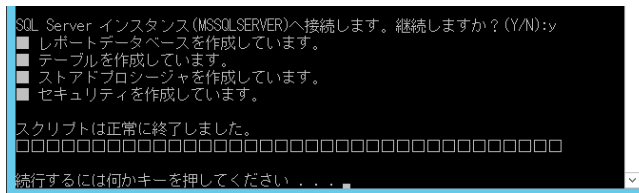
1. BOM レポートデータベースを作成するには、<l>を入力し<Enter>キーを押下します。



2. BOM レポートデータベースのデータベースファイルを作成する場所(フォルダー名)を絶対パス(c:\¥bomdb など)で入力、<Enter>キーを押下します。
3. SQL Server の SQL サービスが起動していない場合には自動で起動します。
4. 接続する SQL Server のインスタンス名が表示され、インストールを開始するか表示されます。
<l>を選択した画面では“既定のインスタンス”と表示されていますが、‘A<insTance> : 名前付きインスタンスの指定’で名前付きインスタンスを指定した場合には、データベースを作成するフォルダー名を指定した後の下の画面で指定したインスタンス名が表示されます。

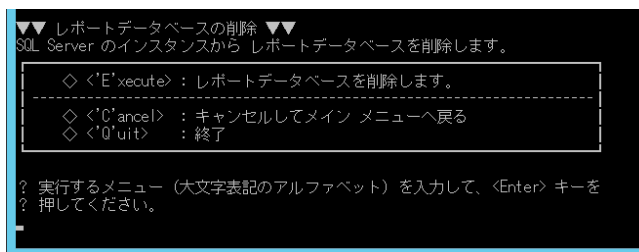


5. <Y>を入力し、<Enter>キーを押下するとデータベースが作成されます。
6. データベースファイルの作成先に指定したフォルダーが存在しない場合には作成確認のメッセージが表示されます。
7. <Y>を入力し、<Enter>キーを押下するとフォルダーを作成し、以降の作業を継続します。
8. 下記の画面が表示されれば、BOM レポートデータベースが作成されました。何かキーを押下すると元のメニューに戻ります。

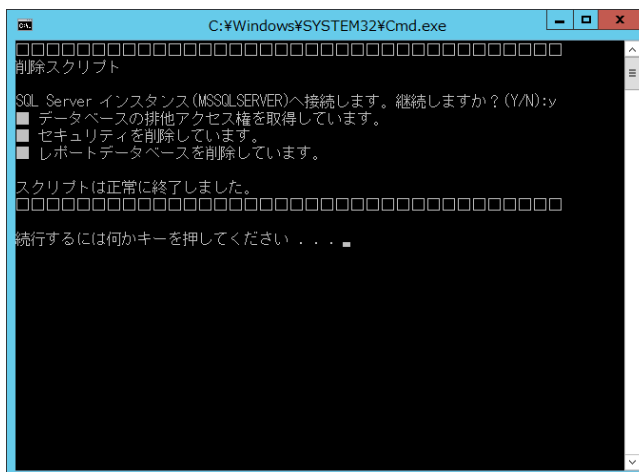


C. <'U'ninst> : レポートデータベースの削除

1. BOM レポートデータベースを削除するために、<U>を入力し、<Enter>キーを押下します。



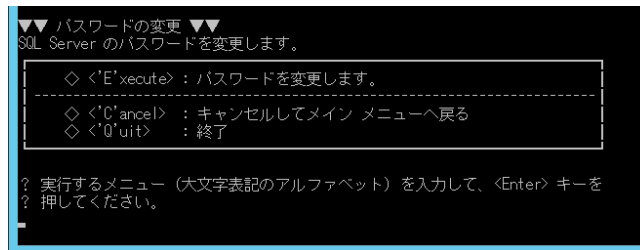
2. <E>を入力し、<Enter>キーを押下します。
3. 削除する SQL Server のインスタンス名が表示されます。継続するとレポートデータベースが削除されます。
4. 下記の画面が表示されれば、BOM レポートデータベースが削除されました。何かキーを押下すると元のメニューに戻ります。



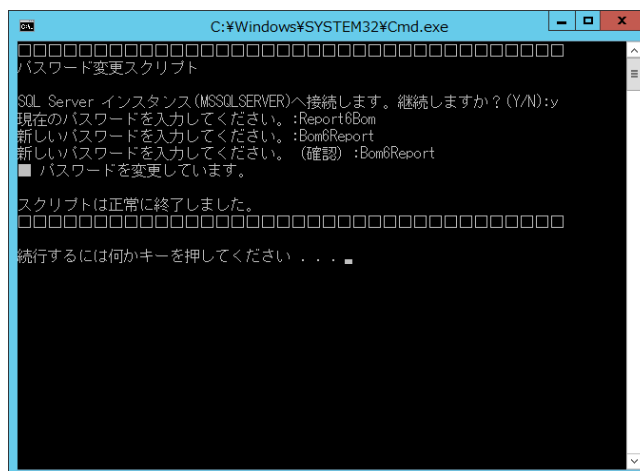
D. <'P'assword> : パスワードの変更

なお、パスワードは初期で“Report6Bom”を設定しています。

1. BOM レポートデータベースへ接続する際に使用するパスワードを変更したい場合、<P>を入力し、<Enter>キーを押下します。



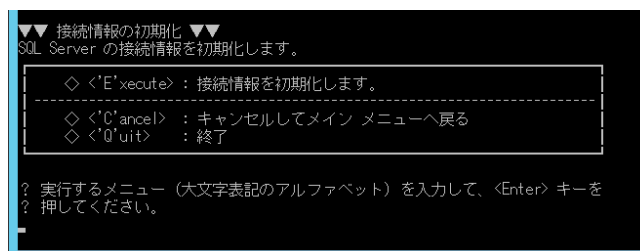
2. <E>を入力し、<Enter>キーを押下します。
3. パスワードを変更する SQL Server のインスタンス名が表示されます。継続するとパスワード変更へと移行します。
4. 現在のパスワードを入力し、<Enter>キーを押下します。
5. 新しいパスワードを入力し、<Enter>キーを押下します。
6. 新しいパスワード(確認)を入力し、<Enter>キーを押下します。
7. パスワード変更処理が動作しますので、正常に処理ができた場合には、“スクリプトは正常に終了しました”のメッセージが出力されます。



E. <i'N'it> : 接続情報の初期化

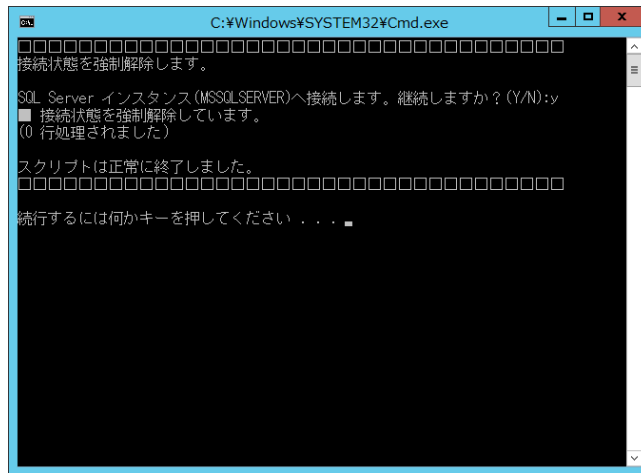
レポートデータベースはデータベースへ対し接続を行った際、排他処理が行われます。しかし何かしらの理由で接続が途切れてしまった場合、排他制御の状態が残ったままになります。排他制御が残ったままの状態を開放する際に本メニューを使用します。

1. BOM レポートデータベースの接続情報を初期化するために、<N>を入力、<Enter>キーを押下します。



2. <E>を入力、<Enter>キーを押下します。

3. 接続状態を強制解除する SQL Server のインスタンス名が表示されます。継続すると接続状態を強制解除する処理へと移行します。
4. 以下の画面が表示されれば、接続状態の強制解除処理が成功しました。何かキーを押下すると元のメニューに戻ります。



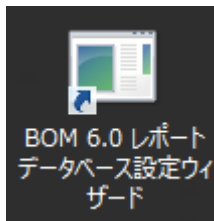
F. <'Q'uit> : 終了

1. レポートデータベース管理メニューを終了するには<Q>を入力し、<Enter>キーを押下します。

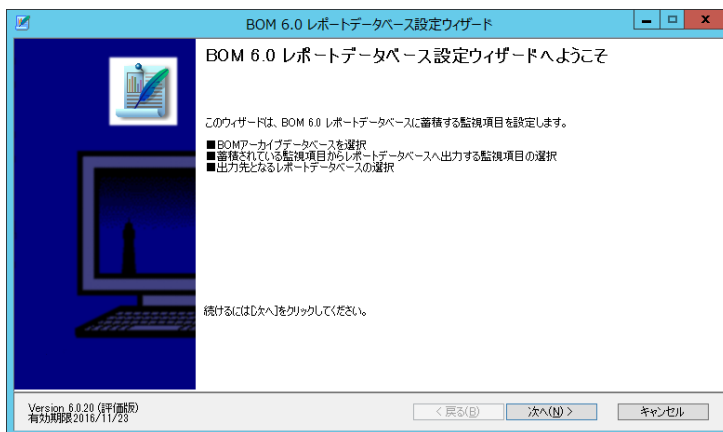
4.7 BOM レポートデータベース設定ウィザードの起動

新しい Report オプションでは従来のアーカイブデータベースから直接出力するのではなく、レポート用のデータベースを構築し出力を行います。レポート用データベースから出力することで、従来よりも早く出力することが可能になりました。

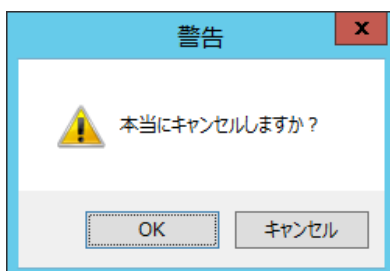
1. デスクトップ上にある“BOM 6.0 レポートデータベース設定ウィザード”を起動します



2. レポートデータベース設定ウィザードが起動します。



レポートデータベースウィザードでは、[次へ]ボタンをクリックすることで次の画面に進み、[戻る]ボタンをクリックすることで前の画面に戻ります。さらに[キャンセル]ボタンをクリックすることで、レポートデータベース設定ウィザードを終了することができます。

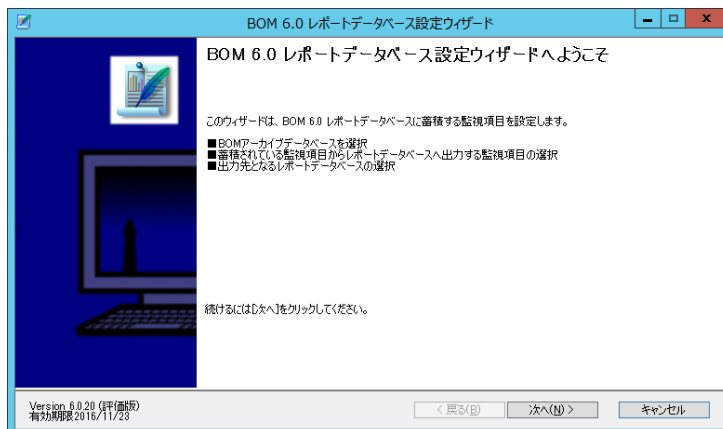


4.8 BOM レポートデータベース設定ウィザードの実行

。レポートデータベース設定ウィザードの各画面について、レポートデータベース設定ウィザードで表示される画面順に使用方法を解説いたします。

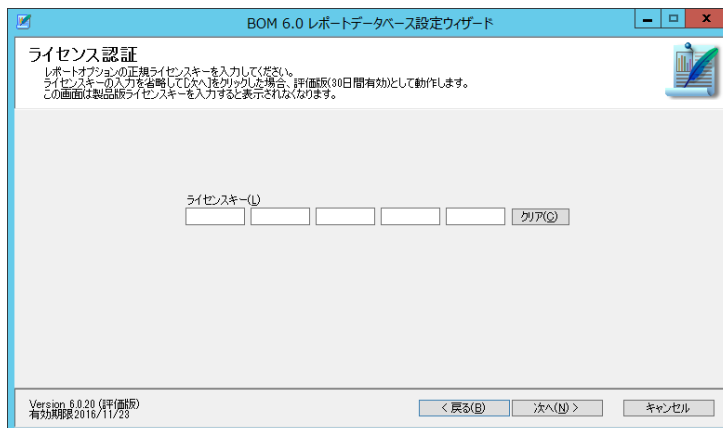
4.8.1 ウェルカム

レポートデータベース設定ウィザードを起動すると、以下のウェルカム画面が表示されます。



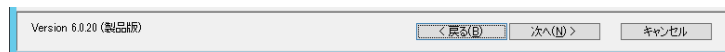
4.8.2 ライセンス認証

ライセンスキーが未入力の場合、ここでライセンス認証画面が表示されます。



1. “ライセンスキー”欄

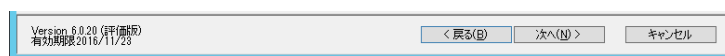
“ライセンスキー”欄に製品版のライセンスキーを入力することで、レポートデータベース設定クライアントにライセンスキーが登録されます。次回以降のレポートデータベース設定ウィザード使用時には、製品版として認識され、ライセンス認証画面が表示されなくなります。



“ライセンスキー”欄を空白のままにした場合は、評価版ライセンスキーが登録されます。

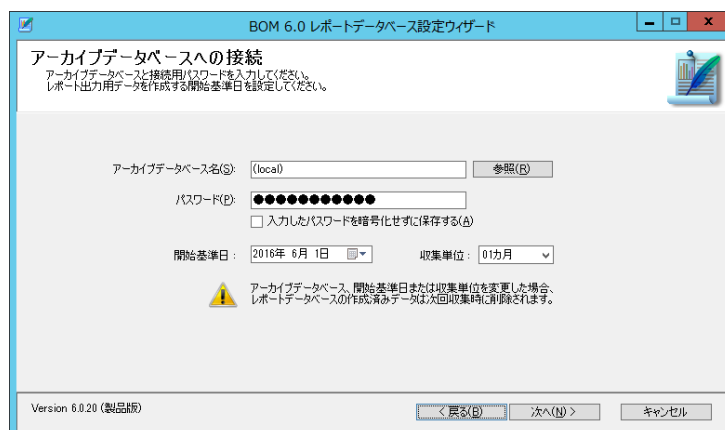
評価版の使用期限は 30 日間となっており、それ以降は製品版のライセンスキーを登録しない限りご利用いただけなくなります。

なお、評価版の有効期限はウィザードの画面下に表示されます。



4.8.3 アーカイブデータベースへの接続

アーカイブデータベースへの接続画面では、レポート出力対象のコンピューターがデータを蓄積しているアーカイブデータベースへ接続します。



1. “アーカイブデータベース名”欄

“アーカイブデータベース”欄には、アーカイブデータベースのコンピューター名または IP アドレスを入力します。

SQL Server の名前付きインスタンスを使用している場合には“コンピューター名¥インスタンス名”を入力します。

設定したアーカイブデータベースはレポートクライアントに保存され、次回以降のレポート作成ウィザード使用時に自動入力されます。

2. [参照]ボタン

アーカイブデータベースをネットワーク一覧から選択したい場合、[参照]ボタンをクリックします。

3. “パスワード”欄

“パスワード”欄には、アーカイブデータベースへの接続パスワード(既定では“Bom6Archive”)を入力します。

※ 接続パスワードは BOM 6.0 アーカイブマネージャーと共通で使用するアカウントのパスワードです。詳細については‘BOM for Windows Ver.6.0 ユーザーズ マニュアル’をご参照ください。

4. チェックボックス“入力したパスワードを暗号化せずに保存する”

チェックボックス“入力したパスワードを暗号化せずに保存する”にチェックを入れると、入力したパスワードを暗号化せずに設定ファイル内に保存します。入力したパスワードの暗号化する場合、チェックボックスのチェックをはずします。

5. “開始基準日”欄

レポート出力用データのデータ開始基準日を指定します。規定値として、開始基準日には、起動した日付の6か月前の月初が表示されます。

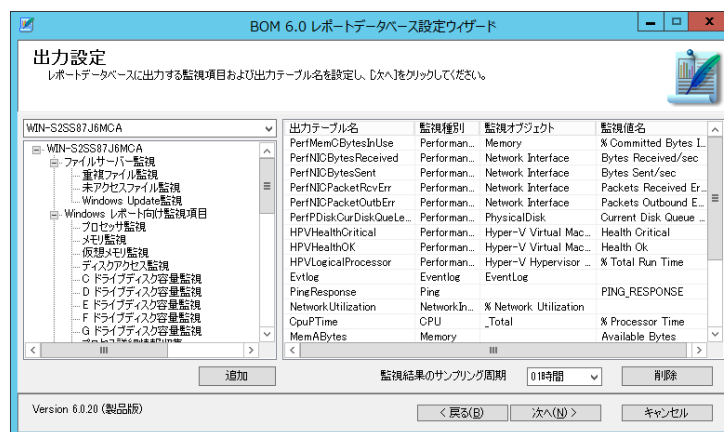
6. “収集単位”欄

レポート出力用データを作成する再の収集単位を“1ヶ月”“3ヶ月”“6ヶ月”から選択します。

※ すでに作成済みのレポートデータベースがあった場合には、次回収集時に削除されます

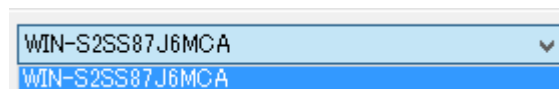
4.8.4 出力設定

レポートデータベースに出力する監視項目および出力テーブル名を指定します。



1. “監視インスタンス”プルダウンメニュー

“監視インスタンス”プルダウンメニューは、レポートデータベースに出力する監視項目を選択する際、該当データが蓄積されている監視インスタンスを指定します。

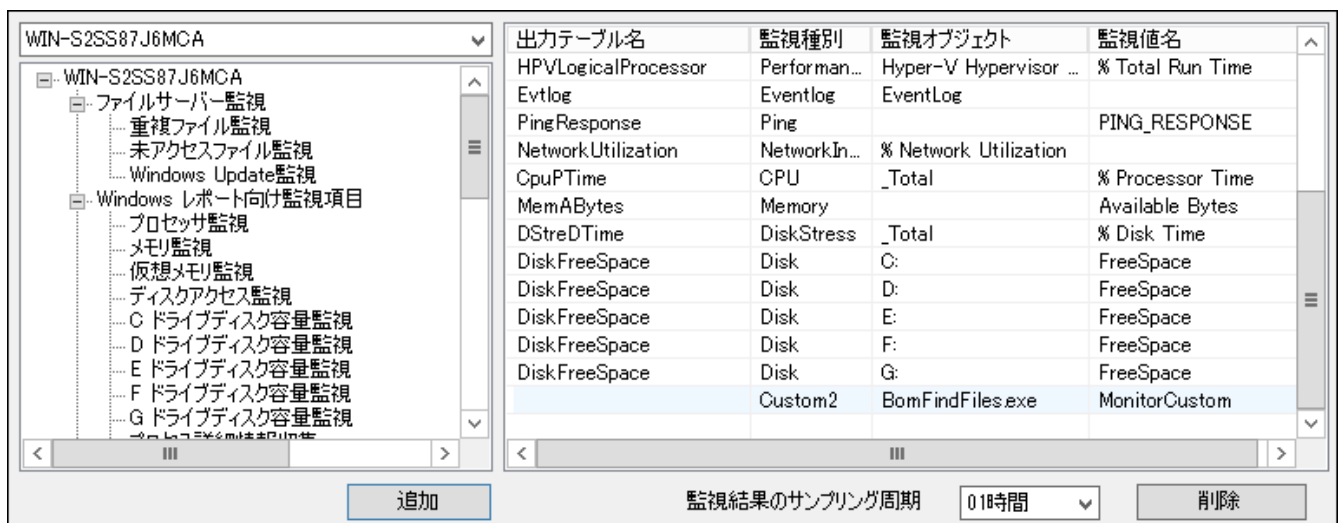


2. 監視項目選択画面

“監視インスタンス”プルダウンメニューで指定したインスタンスに紐づいている監視グループ及び監視項目の一覧が表示されます。

出力対象としたい監視項目を選択後、[追加]ボタンをクリックすることにより、右側の出力対象一覧にレコードが追加されます。監視グループを選択し、[追加]ボタンをクリックした場合、監視グループに含まれる監視項目すべてが右側の出力対象一覧に追加されます。

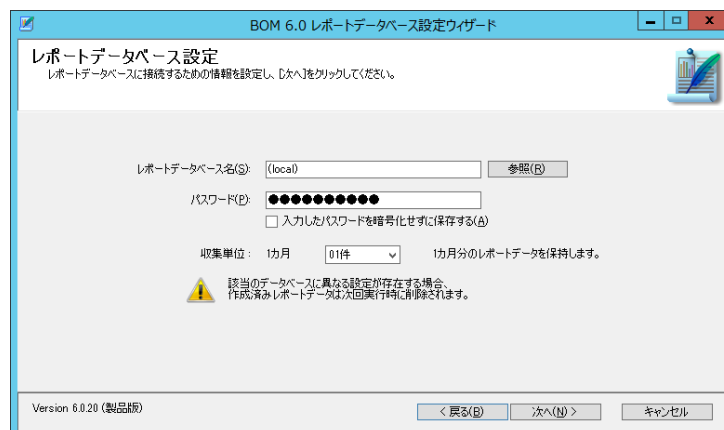
監視インスタンスを選択し、[追加]ボタンをクリックした場合、監視インスタンスに含まれるすべての監視グループ、監視項目が右側の出力対象一覧に追加されます。



※追加されたテーブルの“出力テーブル名”は空白状態で登録されます。必要なテーブル名については、‘Report オプションデザインファイル仕様’の各レポート部分を参照してください

4.8.5 レポートデータベース設定

“レポートデータベース接続”画面では、“出力設定”で指定した各種データの取り込み先レポートデータベースを指定します。



1. “レポートデータベース名”欄

“レポートデータベース”欄には、レポートデータベースを構築したコンピューター名または IP アドレスを入力します。

SQL Server の名前付きインスタンスを使用している場合には“コンピューター名¥インスタンス名”と入力します。

2. [参照]ボタン

レポートデータベースをネットワーク一覧から選択したい場合、[参照]ボタンをクリックします。

3. “パスワード”欄

“パスワード”欄には、レポートデータベースへの接続パスワード(既定では“Report6Bom”)を入力します。

4. チェックボックス“入力したパスワードを暗号化せずに保存する”

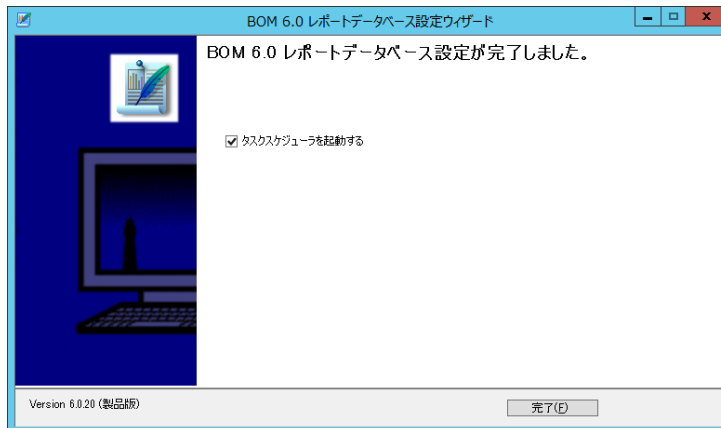
チェックボックス“入力したパスワードを暗号化せずに保存する”にチェックを入れると、入力したパスワードを暗号化せずに設定ファイル内に保存します。入力したパスワードの暗号化する場合は、チェックボックスのチェックをはずします。

5. “収集単位”欄

レポートデータベースに蓄積させるデータ量を“1 件”、“3 件”、“6 件”、“12 件”から選択します。

4.8.6 BOM 6.0 レポートデータベース設定完了

レポートデータベースの設定が完了すると、以下の画面が表示されます。



レポートデータベースへ、データの取り込みを行うために、“ReportETL.exe”を実行させるためのタスク登録を行う必要があります。以下のアドレスに格納されている実行ファイルをタスクスケジューラに登録をし、最低でも 1 日 1 回実行させるように登録を行ってください。

対象ファイル: ReportETL.exe

格納アドレス: “<インストールパス> ¥SAY Technologies¥BOMW6¥Bin”

※デフォルトでは“C:¥Program Files (x86)¥SAY Technologies¥BOMW6¥Bin”

4.9 レポート作成ウィザード拡張の起動

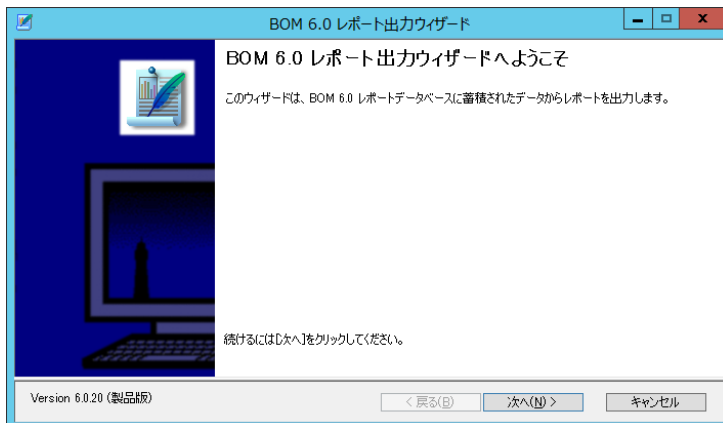
新しい Report オプションでは、レポート作成ウィザード拡張を使用して、用意されているデザイン毎のレポートを出力します。

レポート作成ウィザード拡張は一般ユーザー権限で実行できます。

1. デスクトップ上にある“BOM 6.0 レポート作成ウィザード拡張”を起動します

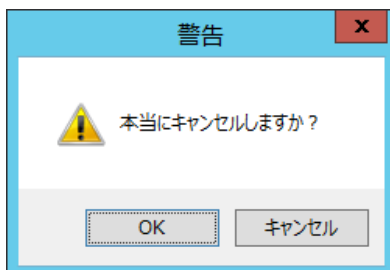


2. レポート出力ウィザードが起動します。



レポート出力ウィザードでは、[次へ]ボタンをクリックすることで次の画面に進み、[戻る]ボタンをクリックすることで前の画面に戻ります。

さらに、[キャンセル]ボタンをクリックすることで、レポート出力ウィザードを終了することができます。



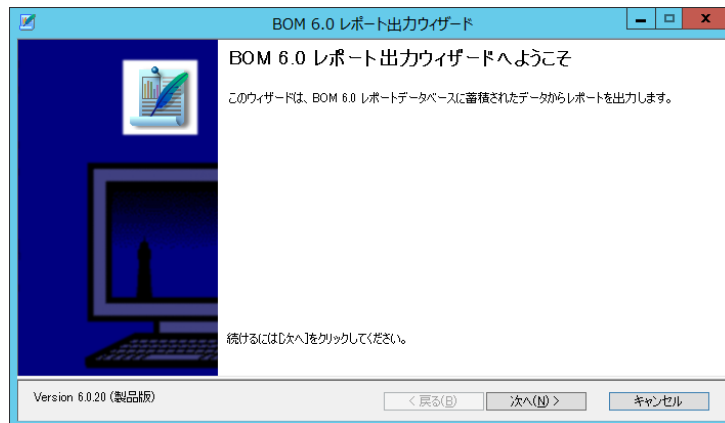
4.10 レポート出力ウィザードの実行

レポート出力ウィザードの各画面について、レポート出力ウィザードで表示される画面順に使用方法を解説いたします。

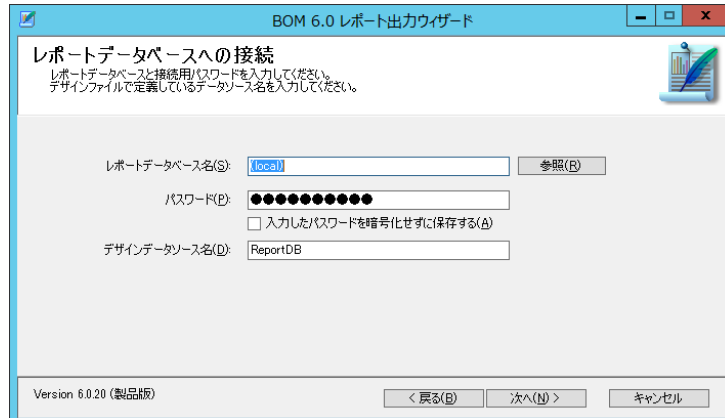
BOM 6.0 出力ウィザードについては Windows 7 SP1 (Professional/Enterprise/Ultimate) (32-bit/64-bit) 上でも動作いたします。

4.10.1 ウェルカム

レポート出力ウィザードを起動すると、まずはこのウェルカム画面が表示されます。



4.10.2 レポートデータベースへの接続



1. “レポートデータベース名”欄

“レポートデータベース名”欄には、レポートデータベースのコンピューター名または IP アドレスを入力します。

SQL Server の名前付きインスタンスを使用している場合には“コンピューター名¥インスタンス名”と入力します。

設定したレポートデータベースはレポートクライアントに保存され、次回以降のレポート作成ウィザード使用時に自動入力されます。

2. [参照]ボタン

アーカイブデータベースをネットワーク一覧から選択したい場合、[参照]ボタンをクリックします。

3. “パスワード”欄

“パスワード”欄には、レポートデータベースへの接続パスワード(既定では“Report6Bom”)を入力します。

4. チェックボックス“入力したパスワードを暗号化せずに保存する”

チェックボックス“入力したパスワードを暗号化せずに保存する”にチェックを入れると、入力したパスワードを暗号化せずに設定ファイル内に保存します。入力したパスワードの暗号化する場合は、チェックボックスのチェックをはずします。

5. “デザインデータソース名”欄

デザインデータソース名を指定します。BOM 6.0 SR2 拡張モジュールでは、“ReportDB”以外を指定すると正常にレポートが出力できなくなります。

4.10.3 レポート出力期間の指定

1. “出力年”欄

“出力年”欄にはレポート出力対象の年を、プルダウンメニューから指定します。

2. “出力期間”欄

“出力期間”欄には、レポート出力対象の開始日および終了日を指定します。

3. “出力形態”欄

“出力形態”欄では、レポート出力形態を MHTML 形式、Excel 形式 (xlsx)、および PDF 形式からお選びいただけます。

4. “出力フォルダー”欄

“出力フォルダー”欄には、レポートのファイル出力先フォルダーを指定します。初回起動時には、既定値としてレポート出力ウィザードを実行しているユーザーのドキュメントフォルダーが設定されています。

設定した出力フォルダーはレポートクライアントに保存され、次回以降のレポート出力ウィザード使用時に自動入力されます。

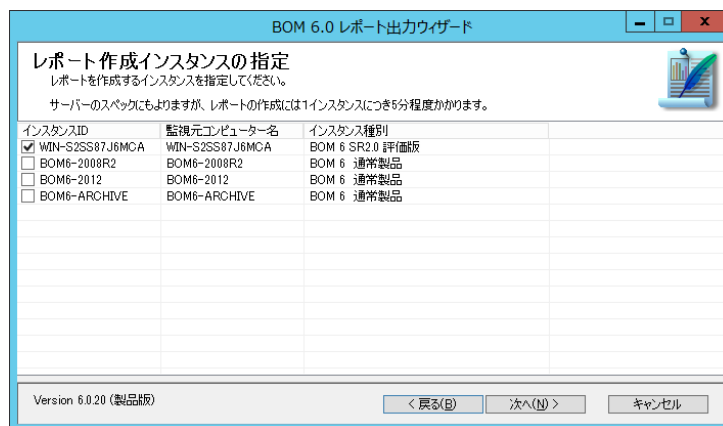
5. [参照]ボタン

出力フォルダーをコンピューターのフォルダー一覧から選択したい場合、[参照]ボタンをクリックします。

4.10.4 レポート作成インスタンスの指定

レポート出力インスタンスの指定画面では、レポートを出力する監視コンピューターを指定できます。

レポートデータベース上に蓄積されている監視コンピューターの“インスタンス ID”、“監視元コンピューター名”、“インスタンス種別”について表示します。



1. チェックボックス“インスタンス ID”

“インスタンス ID”の左側にあるチェックボックスにチェックを入れることで、そのインスタンスをレポート出力の対象にします。

インスタンスID	監視元コンピューター名	インスタンス種別
<input checked="" type="checkbox"/> WIN-S2SS87J6MCA	WIN-S2SS87J6MCA	BOM 6 SR2.0 評価版
<input type="checkbox"/> BOM6-2008R2	BOM6-2008R2	BOM 6 通常製品
<input type="checkbox"/> BOM6-2012	BOM6-2012	BOM 6 通常製品
<input type="checkbox"/> BOM6-ARCHIVE	BOM6-ARCHIVE	BOM 6 通常製品

※ “インスタンス”とは、BOM 監視サービスの監視単位です。詳細については‘BOM for Windows Ver.6.0 ユーザーズ マニュアル’をご参照ください。

※ Linux オプション、VMware オプションのインスタンスは Report オプションに対応していません。そのままレポートを出力した場合には、一部項目が空白になります。

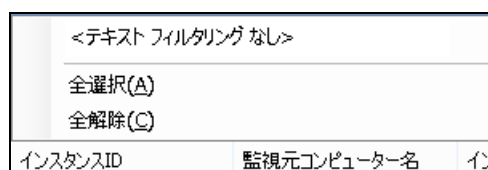
2. 列タイトル

インスタンスID	監視元コンピューター名	インスタンス種別
----------	-------------	----------

“インスタンス ID”、“監視元コンピューター名”、“インスタンス種別”の各列において詳細が表示されます。

3. 列タイトル右クリックメニュー

列タイトルを右クリックすることで、右クリックメニューが呼び出せます。



“インスタンス ID”の右クリックメニューからは“テキストフィルタリング”機能、“全選択”機能、および“全解除”が利用できます。

“監視元コンピューター名”、“インスタンス種別”の右クリックメニューからは“テキストフィルタリング”機能が利用できます。

4. “テキストフィルタリング”機能

“テキストフィルタリング”機能は、文字列を入力し、<Enter>キーを押下することで、入力した文字列と部分一致した名称（“インスタンス ID”、“監視元コンピューター名”、“インスタンス種別”）の行を表示する機能です。

テキストフィルタリングを解除する場合には、入力した文字列を削除した上で、<Enter>キーを押下します。

インスタンスID	監視元コンピューター名	インスタンス種別
<input type="checkbox"/> BOM6-2012	BOM6-2012	BOM 6 通常製品

5. “全選択”機能

“全選択”機能は、すべてのインスタンスのチェックボックスにチェックを入れます。

6. “全解除”機能

“全解除”機能は、すべてのインスタンスのチェックボックスからチェックを外します。

4.10.5 レポートデザインの指定

レポートデザインの指定画面では、出力するレポートを選択できます。

No	デザインファイル名
0	サーバー診断レポート.frx

1. “選択したデザインをひとつのファイルにまとめて出力する”チェックボックス

“選択したデザインをひとつのファイルにまとめて出力する”チェックボックスにチェックをいれると、出力するレポートが一つのファイルで出力されます。複数のファイルで出力したい場合には、チェックボックスのチェックを外してください。

なお、出力可能なレポートについては‘Report オプションデザインファイル仕様’を参照してください。

4.10.6 デザインデータソースの設定

本項目については、今後拡張時に使用する画面です。現時点では使用しない為、[次へ]ボタンで進んでください。

4.10.7 出力設定の確認

出力設定の確認画面では、今までウィザードで指定した内容を表示します。

1. “設定確認”欄

レポート出力ウィザードで指定した内容が表示されます。出力する内容に間違いがないかご確認ください。

```

レポートデータベースサーバー: (local)
期間: 2016/10/01 - 2016/10/31
形態: PDF
出力フォルダー: C:\Users\Administrator\Documents
出力ファイル:
  WIN-S2SS87J6MCA_201610
選択デザイン:
  C:\ProgramData\SAY Technologies\BOMW6\BOM Forms Design\ReportDesigner
  サーバー診断レポート.frx
  
```

2. “コマンドライン実行用文字列”欄

“コマンドライン実行用文字列”欄は、レポート出力時に実際に実行するレポート出力コマンドの内容です。

レポート出力コマンドをコピーし、メモ帳などを使用してバッチファイルとして構成することで、後からレポート出力コマンドを実行することができます。

※ なお、各種引数については公開していません

3. [クリップボードへコピー]ボタン

[クリップボードへコピー]ボタンをクリックすることで、“コマンドライン実行用文字列”をクリップボードにコピーすることができます。

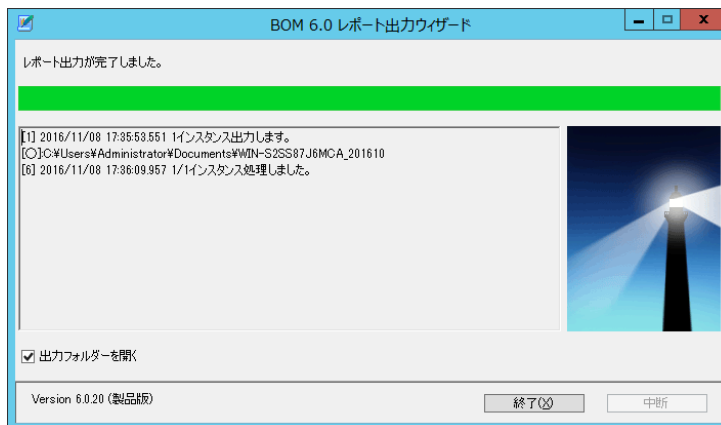
4. [開始]ボタン

[開始]ボタンをクリックすることでレポート出力が開始されます。

指定内容に間違いがないことを確認した上で、[開始]ボタンをクリックします。

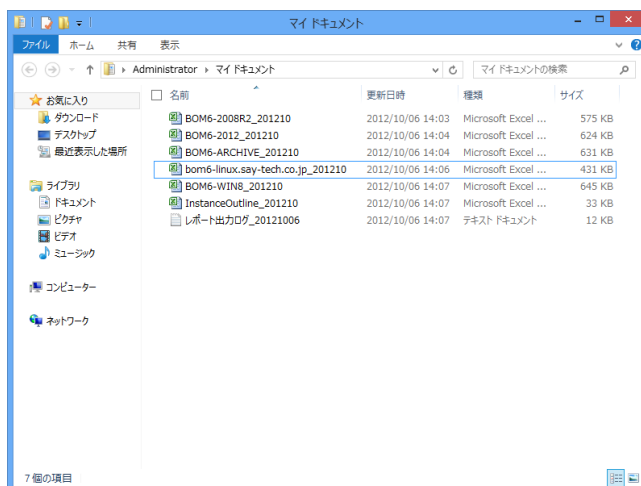
4.10.8 レポート完了

レポート出力が完了するとレポート完了画面が表示されます。



1. チェックボックス“出力フォルダーを開く”

チェックボックス“出力フォルダーを開く”のチェックが入っている場合、終了時に‘4.10.3 レポート出力期間の指定’の“出力フォルダー”で指定したフォルダーが開きます。



2. [終了]ボタン

[終了]ボタンをクリックすることで、ウィザードのすべての処理が完了します。

第5章 出力レポート

5.1 概要

各種出力レポートの詳細については、'Report オプションデザインファイル仕様' で解説をおこなっています。

詳細については 'Report オプションデザインファイル仕様' を参照してください。

BOM Ver.6.0 SR2 拡張モジュール
ユーザーズ マニュアル

2016 年 12 月 1 日 初版
著者 セイ・テクノロジーズ株式会社
発行者 セイ・テクノロジーズ株式会社
発行 セイ・テクノロジーズ株式会社
バージョン Ver.6.0.20.0

Copyright © 2016 SAY Technologies, Inc. All rights reserved.
